

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892700101		
法人名	社会福祉法人 楽久園会		
事業所名	グループホーム ほのぼの園		
所在地	兵庫県多可郡多可町中区中村町377番地1		
自己評価作成日	令和元年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	令和元年12月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームほのぼの園は、平成31年2月に中区中村町の商店街、住宅街が軒を連ねる街中に開設した。近隣に町唯一の総合病院である多可赤十字病院があり、多くの利用者のかかりつけ医となっており、体調に変化があればすぐに受診できる体制となっている。食事は、併設の小規模多機能ホームの厨房で職員が四季折々の食材を使った手作りの調理を提供している。また、重度化しても、車いすでの対応が可能なトイレやリフト浴ができる浴槽などの設備を整えている。レクリエーションは、午前中はできるだけ体を使った体操・運動を取り入れ、午後は折り紙、塗り絵、計算ドリル、言葉遊びなど手先、頭を使ったレクに取り組んでいる。また、第2、第4木曜日は隣接の小規模多機能ホームで実施している絆カフェに参加し、地域との交流にも力を入れている。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**本人本位の暮らし支援**・「ひとりひとりが主人公」であり「安心・満足」を理念とした本人本位の満足感のある暮らしが実現するよう、地域との関わりの中、ご本人との会話を大切にしながら様々なプログラムを工夫(設計)している(家族と行う季節行事:花見・運動会等、園児・児童とのふれあい、月2回実施の「絆カフェ」(併設事業所で実施)や日常レク:ながいき体操・歩け歩け運動・言葉遊び季節飾り制作等、希望者で出かけるドライブや地域行事参加等)。②**法人のスケールメリットと地域交流**・法人本部が実施する地域と事業所の双方向交流(行事協力:祭り・運動会・地域清掃等)、園児・児童とのふれあい(シャボン玉遊びや吹奏楽演奏)に参加したり、と開設1年目の事業所であるが、母体法人の社会福祉事業のスケールの下に、その展開は充実しており、地域との関係性も強い。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが主人公、安心・満足、あたたかい心・チームワーク」という法人理念に沿って実践に繋げている。今後は、地域密着型サービスの意義を踏まえたほのぼの園独自の事業所理念を創っていききたい。	法人理念「ひとりひとりが主人公 安心 満足 あたたかい心 チームワーク」の精神を基軸に、入居者が安心して望む暮らしが実現できるよう、全職員が同じベクトル(共通目標)でその達成に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の小規模多機能ホームで実施している月2回の絆カフェに参加するとともに法人が主催している楽久園会まつり、夏まつりなどに参加し地域との交流を図っている。	日々の散歩や買い物、町の音楽祭鑑賞、「絆カフェ」(併設事業所が実施)やグループ全体での地域とともに実施する楽久園会まつりへの参加、園児との交流等、地域の資源も活用しての日常が展開されている。	今後も地域関係者の方々のご協力の下、地域との交流をさらに温めていかれ、地域の一員として積極的な活動が継続されることに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座、絆カフェでの認知症予防講座などにおいて、講師役として認知症の人の理解、支援方法などについて地域の人に話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、活動報告等を実施しており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、事業所からの一方的な情報発信にとどまることなく、入居者の安全面・衛生面、防災対策、外出行事、地域交流等、多岐に亘り意見交換を行い、その内容を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と介護保険の更新申請、認定調査票等の申請など必要な事項は連絡を取り合っている。また、研修の案内をしていただいたり、依頼のあった研修の講師役を務めている。	町の担当者とは連絡を密にし、事業所情報の発信・相談等を行っている。GH連絡会や地域包括支援センター主催の勉強会にも参加し、事業所が閉鎖的にならないように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を年4回開催しており、身体拘束に該当する具体的な行為は全職員が周知しており、身体拘束をしないケアを実施している。しかし、玄関の施錠については、安全上施錠している。	研修・勉強会を通じ、職員は「身体的拘束等の弊害」について十分理解しており、入居者が望む日常となるよう支援している。また、「委員会」(年4回実施)により日々のケアの振り返りを含め身体拘束の可否・防止について検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で高齢者虐待防止法について学んでおり、虐待をしないケアの意識を高めている。また、職員間で虐待がないよう注意し合いながらケアを行うとともにストレスチェックを実施し、メンタルヘルスケアにも取り組んでいる。	職員は研修・事例検討を通じ、「不適切なケア」のレベルからの払拭(特に『言葉かけ』の方法とタイミングに留意)に取り組んでいる。また、職員間コミュニケーションも大切にし、「介護疲れ」「孤立化」しないように努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、研修を受けている。以前は成年後見制度を活用している利用者がいたが、現在は活用している利用者はいない状況である。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はおられない(以前は1名あり)。職員は、認知症高齢者にとって制度活用が有用な方策の一つであることを理解しており、状況に応じて家族等へ情報を提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、疑問点など家族等に十分な説明を行い、理解を図っている。	入居後に不具合が生じない様、事業所見学、体験(希望者)、質疑応答等により疑問点・不安感がない状態にして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明し理解していただいている(重度化・終末期への対応方針も)。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望については、面会時や電話等でお聞きし、職員で話し合い、運営に反映している。	運営推進会議、行事参加時、来訪時、電話・メール等、様々な機会を設けて意見等を聴き取っている。いただいた意見等は直ちに共有・検討し、フィードバックするとともに運営に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員の意見や提案を聞くように努めている。また、必要があれば、その都度職員間で話し合い、運営に反映している。	職員会議では、業務上での課題の共有・解決策の検討、また、様々な意見・提案を聴く機会となっている。代表者・管理者との個別での面談等による意見等の吸い上げも実施し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、資格の取得など職員個々の努力や勤務状況等を把握し、給与水準等に反映させている。また、法人内保育所もあり、職員が働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員を育成するために、段階、役職に応じて、新任職員研修、認知症研修、介護支援専門員等の外部研修に参加させるとともに、月に1回の内部研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多可町グループホーム連絡会や多可町地域包括ケア連絡協議会に参加し、多可町内の福祉関係者とのネットワークづくりを通して、サービスの質の向上に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に見学に来ていただき、困っていること、不安なこと、要望等についてお聞きするとともに、希望があれば1日体験を実施するなど本人の安心確保に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族に見学に来ていただき、困っていること、要望等をお聞きするとともに疑問点、料金等についても十分説明し、安心して利用できるよう配慮している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族・本人と十分話し合うことで、その時必要としている支援を見極め、小規模多機能型居宅介護など他のサービスの提案もするなどの対応をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に生活をしている意識を持って、利用者から教えてもらったり、励ましてもらいながらケアを行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、通院、外出などに協力してもらったり、面会に出来るだけ来ていただき、衣替えや事業所の行事に参加してもらうことで、一緒に本人を支えていくような関係づくりに努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員による外出の機会は少ないが、ご家族に協力していただき、なじみの人や場所との関係はある程度はできている。今後は、職員による外出の機会も増やしていきたい。	家族との外出(買い物、食事、通院同行、法要等)、友人・知人の訪問、出身エリアでのカラオケ大会参加、電話での会話や季節のお便り投函等、今迄の生活感が出来るだけ長く継続するよう支援している。	ご家族の理解・協力を頂きながら、面会・外食・通院同行の機会等も活用し、入居者個々人のご家族等(馴染みの関係)との大切な時間の確保の継続支援を願います。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士会話があり、自然に助け合う関係が築けている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に変わられた場合などサービスが終了しても、必要に応じて、相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望などは、個別ノートに記録し、職員間で話し合い、その実現に努めている。また、本人の思いが把握しにくい場合は、ご家族に聞くなどして本人の望む暮らしの実現に努めている。	入居者一人ひとりとの係わり(会話、言動把握、仕草・表情等の読み取り)のなかから、ご本人が望む暮らしとなるようその思い・意向を汲み取っている。キャッチした情報は「個別ノート」や申し送りで共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やなじみの暮らしなど本人、ご家族、介護支援専門員等から情報収集している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等については、今までの生活歴や事業所での行動、表情などから把握するようにしている。また、本人ができることで今していないことについては、していただく場面を作りながら、把握するように努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人の意向を十分に把握できておらず、職員から見た介護計画であり、現状のケアを反映した介護計画となっている。	入居者の思い・意向に家族の要望、医療専門職・介護職員の意見も踏まえ、ご本人の「今」に有用な介護計画を作成している。隔週でのケアカンファレンス・モニタリングを通じ、状況変化を見逃さずプランのアップデートに取り組んでいる。	今後も「本人本位」の視点を介護計画の基軸とし、ご本人の「思い・ニーズ」の把握に努められ、本人を含めた関係者(チームワーク)で、その達成を目指すことに期待をします。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子で気づいた点は「利用者個別ノート」に記入し、介護計画の見直しに生かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズには十分対応できていないが、外出したり行事や絆カフェに参加するなど、ある程度本人のニーズに合わせて対応している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が暮らしていくうえで必要な社会資源(人や場所)はある程度は把握しており、家族に協力していただき外出等している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切にしており、今までのかかりつけ医に受診していただいている。家族で対応が難しい場合は、施設で対応している。	かかりつけ医(内科)は入居者・家族の要望に応じて対応・支援しており、通院同行は家族と協同している。歯科は必要時、外来受診の支援を行っている。	今後、健康管理の上での予防歯科(医師及び衛生士による定期的訪問による口腔衛生・環境のメンテナンス等)の必要性も、ご家族に理解をいただけるようにご案内しては如何でしょうか。
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は、利用者の健康については常に気を配っており、気づいた点を看護師に相談し、受診などの指示を得ている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は、事業所での介護状況などの情報提供をするとともに、入院期間中は何度か面会に行き治療状況を把握している。また、病院の地域医療連携室等を通じて治療が終了次第早期に退院できるよう調整している。	入院中は入居者の不安感軽減ため、職員が面会に伺っている。家族とも情報を共有し、病院とは早期退院を目標に連携している。退院時には、ホームでの暮らしに不具合が生じない様情報を入手し、支援に活かしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、基本的には当法人が運営している特別養護老人ホームに移行していただく旨、契約時に説明しているが、現実に重度化した場合は、家族等と話し合いを持ち、事業所でできることを説明し方針を決定している。	重度化・終末期への対応方針は、入居時に説明・理解いただいております。ホームで「できること」「難しいこと」を明確にし、ご本人にとって望ましいケアとなるよう関係者(本人・家族、医療専門職、事業所)で相談・検討し取り組んでいる。この一年では1名がホームで逝去された。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時のマニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練を受けていない職員もあり、今後実施していきたい。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、地震、水害の際の避難方法は十分検討されておらず、今後地域と協力体制を築きながらマニュアル等を作成していきたい。	定期(年2回)での通報・消防・避難訓練を実施している。地域の避難訓練計画づくりに参加し、自治会には有事の協力をいただけるように図っている。近くに河川があり、水害対策も今後の課題となっている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止委員会で「言うてはいけないワード」に取り組んでおり、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉遣いを心がけている。	入居者お一人おひとりの現況及び自尊心・羞恥心に十分配慮しながら、今まで培ってこられた事柄(技能・趣味・習慣等)のなかで、できる部分をご本人のタイミングで体現いただくよう支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望は、日頃から1対1になった時などに聞いており、行事予定、着る服、食事のセレクトメニューなどは自己決定できるように支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、レクリエーション、入浴の時間帯などある程度の事業所の決まりごとはあるが、朝食は起きられた人から食べてもらったり、入浴も日を変更するなど、自分のペースに合わせ、できる範囲内で希望に沿うよう支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分が着たい服については、自分で選んでもらっている。また、今までのなじみの美容室については、家族に協力してもらい、外出してもらっている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、一人ひとりの状態に合わせてミキサー食やきざみ食を提供しており、職員が行っている。食事の片づけについても、職員が行っているが、今後は、出来る範囲で手伝ってもらうようにしていきたい。食事は見守りしながら職員も一緒に食べている。	全食手作りの「食事」を提供(ご本人の状態に応じた食事形態で)している。メニューの選択も可能であり、行事食や外出時の食事、手作りおやつも楽しみ事となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて、粥、きざみ、ミキサー食などの提供や摂取カロリーを調節している。また、体調不良の時は、消化の良い食事の提供や水分補給に心がけている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持については、本人の力に応じ、入れ歯洗浄剤、歯ブラシ等を使用し支援している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声掛けをするなどできるだけ自立した排泄が出来るよう支援している。	入居者個々人の現況及び排泄のパターンとそのサインを把握し、ご本人に適合した方法(声掛けのタイミングや方法)でトイレでの排泄が行えるよう支援している。夜間帯もトイレでの排泄を基本的に支援している(パッド交換の方もあり)。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者については、下剤を服用してもらっているが、できるだけ自然排便できるよう水分摂取や運動してもらうよう心掛けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が決めた曜日、時間帯に入浴の声掛けを行っているが、本人の希望に合わせて曜日や時間帯の変更をするなど無理強いしないように支援している。	週3回の入浴が行えるよう支援している。ゆっくりゆったりとした入浴時間となるよう、ご本人の望むタイミングでの実施となっている。車椅子の方も湯舟に浸かっていただいている(リフト浴活用)。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に合わせ、自室で休息できるようにしている。冬場は電気毛布や加湿器を使用するなど心地よい睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用等については、薬の説明書により理解している。また、薬は、必ず手渡しし、服薬を確認している。特に新しく処方された薬については、症状の変化に注意を払い、変化があれば速やかに主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、外出支援は行っているが、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割づくり、楽しみごとの支援までには至っていない。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度のドライブ、秋の日帰り外出の支援をしている。各個人の外出希望に対しては、家族の協力を得て、実施している。	日々の散歩や買い物、花壇の水遣り等、日常から外気に触れる機会を設計している。希望者で出かける「絆カフェ」やドライブ、家族も参加する季節の花見(桜、紅葉等)、法人本部が主催する「まつり」への参加等、適度な刺激となるプログラムが実施されている。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力の応じて、お金を所持してもらい、必要に応じて外出時に使えるよう支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話、手紙などの支援をしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂などの共用空間は、花や掲示物で季節感が感じられるよう工夫している。また、直射日光が当たる箇所は、カーテン等で調節し、テレビ、CDの音が大きすぎないように配慮するとともにエアコン、加湿器を使用し、居心地よく過ごせるようにしている。	適度な採光の入るゆったりとしたリビング、調理の匂いが「食」をそそるアイランドキッチン、木の温もりを感じる立て付け、車椅子の方も対応できる浴室、適度な空調管理等、居心地よく過ごせる共用空間となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のサブテーブル、ベランダ・廊下の長椅子、和室の上がり框など独りになれたり、小人数で過ごせる場所を設けている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今までで使い慣れた布団、身の回り品を持って来てもらい、家族の写真を飾ってもらうなど本人が居心地よく過ごせるように配慮している。	居室は広く、洗面台・トイレが設置されている。個々人が使い慣れた馴染みの大切なもの(テレビ、筆筒、置き物、家族写真等)を持ち込み、居心地の良い居室となるよう支援している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、名札をかけ、自分の部屋が分かるようにしている。各居室にはトイレ、洗面台を完備し、一人ひとりの力を活かした生活が送れるようにしている。		